

指導案作成時に学生が感じる課題意識 ——映像視聴前後の変化についての検討——

室井 眞紀子* 桐川 敦子**

* 帝京短期大学 こども教育学科 ** 日本女子体育大学

要 旨

教育実習において学生は、担当教諭の指導の下で1日の保育を任される全日実習（責任実習とも言う）を行わなければならない。そのため、指導案を詳細に書くことが求められる。しかしながら、指導案作成に対し苦手意識を持つ学生は多い。この研究では、指導案作成時に学生が感じる課題とその課題に対する意識の変化について実際の保育場面の映像を用い調査を行った。結果として、視覚教材を用いても子ども理解や保育内容の深まり等の課題意識に対する変化はみられなかった。しかし、保育の展開をイメージできると、指導案作成時に指導・援助方法を検討する際の課題が減少することが分かった。今後は、学生が子ども理解を深められるような指導法をさらに研究していく必要がある。

キーワード：指導計画、子ども理解、教育実習

I はじめに

幼稚園、保育園では、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に基づき、各園が教育・保育課程を編成し、子どもの実態と照らし合わせながら長期の計画や短期の計画をたて進められている。幼児一人一人が安心感を持ち、生活や遊びを通して必要な経験を得るためには、無計画や行き当たりばったりで保育を行うのではなく、子どもの実態を基に綿密な計画を立てる必要がある。これは教育実習に参加する学生も同様である。なぜなら教育実習において学生は、担当教諭の指導の下で保育を実践しなければならず、そのためには、事前に保育の流れや展開をイメージし見通しを持って保育を行えるよう、指導案を詳細に書くことが求められる。しかし、指導案の作成に対し「大変」「面倒くさい」「難しい」「書けない」「分からない」など苦手意識や困難感を持つ学生は多い。学生が難しいと感じる理由には、書くことが苦手^{1,2)}、子どもの姿や発達をイメージしにくい³⁾、書き方が分からない⁴⁾など様々な要因があげられる。榎本²⁾は、書く難しさだけでなく「不安感」「負担感」「義務感」「嫌悪感」も含め「困難さ」と表現している。このように、学生にとって指導案作成は大変悩ましく、苦慮するものであり、大滝⁵⁾は、指導案作成は学生が難しいと感じる課題の一つであると述べている。

保育者養成校では、教育実習指導や保育実習指導を含め様々な授業の中で指導案を作成する時間を設け、書き方の指導が行われている。また、実習関連の教科

書では作成の方法や手順、具体的な書き方、参考例等が詳細に示され、それらを参考にしながら指導案が立案できるよう工夫がなされているものも多い。しかし、そのような教科書を参考にしても学生が難しいと感じる理由は何であろうか。その理由に、菜原ほか⁶⁾は、養成校や実習現場ごとに様式や形式のパターンが異なることや現場を知らない学生にとって保育を想像して記述していくことの困難さを上げている。また、森本¹⁾は「困難さ」には「保育を生み出す過程で生じる大変さ」と「書くことの大変さ」2つの質の異なる困難さがあると述べている。このように学生が指導案作成に対して困難さを感じる理由には多くの要因があると考えられる。そこで本研究では、指導案作成において学生が感じる課題と意識の変化について調査し、今後の指導案作成指導の在り方について検討する。

II 予備調査

1. 調査の対象と時期

- (1) 対象
A短期大学 2年次開講の「保育課程総論」履修者 229名
- (2) 時期
平成28年5月の保育課程総論授業内に実施

2. 調査内容

- (1) 実施方法・内容
「指導案作成において難しいと思うこと」について

自由記述（無記名式）を求める。

(2) 分析方法

記述内容をKJ法にて分析。

3. 倫理的配慮

本調査は個人を特定できないよう無記名で実施する旨を口頭で説明し、同意の上で回答を求めた。

4. 結果と考察

結果は<表 1>に示す。文中及び表 I のカッコ（ ）内に示された数字は分析から抽出した回答総数である。

記述内容の分析から『保育を構想する力の不足』

(317)と『指導案記述に対する不安』(46)の2つのカテゴリーを抽出した。『保育を構想する力の不足』は、「子ども理解」(56)「保育内容の理解」(112)「援助・指導方法」(149)等のサブカテゴリーから成り、子どもの姿の予想や保育の組み立て等に難しさを感じていることが明らかになった。『指導案記述に対する不安』は、「記述に関する不安」(44)や「書類作成の苦手意識」(2)等のサブカテゴリーから成り、内容のポイントを押さえて書くこと等に難しさを感じていることが明らかになった。

以上より、現場に出る前の学生にとって「子どもの姿」や「保育の展開」を想起し記述することが困難であることが読み取れる。

表 1 指導案作成時に学生が感じる課題

保育を構想する力の不足	子どもの姿を想起することへの困難	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿が想像できない(52) ・子どもの発達が分からない(4)
	保育内容を発想する力の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの設定が難しい(89) ・子どもの姿から活動を考えるのが難しい(8) ・子どもの姿を捉えても何をすればよいか分からない(8) ・年齢に応じた活動が分からない(7)
	子どもの目線にたった指導、援助方法を考慮することへの困難	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のまとめ方（終え方）が難しい(34) ・導入が難しい(33) ・援助/留意点が分からない(28) ・時間配分が分からない(20) ・環境設定が難しい(18) ・活動に対する援助が難しい(10) ・子どもを集中させることが難しい(4) ・言葉遣い（言葉掛け）が難しい(1) ・子どもを楽しませる方法が分からない(1)
指導案記述に対する不安	指導案記述方法に関する戸惑い	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けをどこまで細かく書けばよいのか分からない(14) ・声掛けをどこまで書くべきか分からない(12) ・活動の援助をどこまで細かく書けばよいのか分からない(7) ・ポイントを押さえられず長くなってしまう(6) ・指導案を書くのが不安（自信がない）(3) ・台本ようになってしまう(1) （セリフや会話も書くのかどうか） ・幼児の活動をどのように書くかが難しい(1)
	書類作成に対する苦手意識	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと計画を立てることが苦手(1) ・もともと文章を書くことが苦手(1)
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない(1)

Ⅲ 本調査

1. 調査の対象と時期

(1) 対象

A短期大学 2年次開講の「保育課程総論」履修者
176名

(2) 時期

平成29年5月の保育課程総論授業内に実施

2. 調査方法

(1) アンケート調査

予備調査の結果を元に作成した「指導案作成に関するアンケート調査（無記名）」<表2>を映像視聴の前後に実施した。回答は、「そう思う」を1点、「やや思う」を2点、「あまり思わない」を3点、「思わない」を4点とし、それぞれの小カテゴリーごとに得点化し、平均値を算出しグラフ化した。

表2
指 導 案 作 成 に 関 す る
ア ン ケ ー ト 調 査

平成29年5月

このアンケートはより良い指導を目指す研究のためのものです。結果は統計的に処理し、個人を特定することは一切ありません。研究以外には使用いたしませんし、研究発表をする際も個人を特定することはありません。ご回答を持ってご承諾いただいたことといたします。
室井真紀子 桐川敦子

指導案作成について、下の質問に当てはまる答えに丸を付けてください。

		そ う 思 う	や や 思 う	あ ま り 思 わ な い	思 わ な い
子 ど も 理 解	指導案作成時に子どもの姿が想像できない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	指導案作成時に子どもの発達が分からない事で苦慮する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保 育 内 容	ねらいの設定が難しいと感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	子どもの姿から活動を考えるのが難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	年齢に応じた活動が分からない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
指 導 ・ 援 助 方 法	活動の終え方を考える事が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	導入を考える事が難しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	援助の留意点が分からない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	時間配分が分からない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	子どもを集中させる方法が分からない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
記 述 に 関 する 不 安	文章を書くことに苦手意識がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ありがとうございました！！



図1 (写真1)



図2 (写真2)



図3 (写真3)

(2) 倫理的配慮

学生にはアンケート調査は無記名で行い、取得したデータは研究以外には使用しないことを説明し、了承を得た上で回答を求めた。

(3) 映像視聴

「絵本の読み聞かせ場面」の部分実習指導案作成後に、実際の「絵本の読み聞かせ場面」の映像を視聴させた。視聴後、再度同じ場面の部分実習指導案の作成を行い、映像視聴前後での指導案作成に対する課題意識の変化を考察する。

ア) 対象：B幼稚園の5歳児クラス（23名）における「絵本の読み聞かせ場面」（写真1）（写真2）（写真3）

イ) 録画日時：2017年5月18日10時23ごろ（約9分間）

ウ) 保育者：経験年数2年目（学生の年齢に近い保育者のほうが、学生が親近感を持ち、自分が保育をしている様子をイメージしやすいと考えたため。）

エ) 絵本：「おおきなかぶ」
Aトルストイ作話・内田莉沙子訳・佐藤忠良絵、福音館書店

オ) 録画・視聴内容
00:00 手遊び（お寺の和尚さん）
01:53 畑に植えたキュウリ・枝豆の話
02:55 絵本「おおきなかぶ」の読み聞かせ
06:30 感想を話し合う
07:30 絵本は昼食後に読めるよう絵本コーナーに置くということ畑に水をやりましょうという話
08:43 水筒をもって園庭に移動（活動終了）

IV 結果と考察

1. 子ども理解

子ども理解全2項目において、映像視聴前より視聴後の方が、課題に対するの困難感が微増した。<表3><表4>はその結果である。指導案の作成には予想される子どもの姿を想起することが必要不可欠である

が、実習経験の少ない学生にとって子どもの姿を想起することは困難である。そこで、映像を視聴する事で子どもの姿を想起しやすくなり、指導案が書きやすくなるのではないかと考え課題の部分実習指導案「絵本の読み聞かせ」と同じ場面の映像を用いた。しかし、映像を見ることで、逆に子どもの姿を想像することや発達を理解することに難しさを感じるようになったことが明らかになった。これは、映像内の子どもの姿が学生がイメージしていた子どもの姿や発達と異なり、その乖離が指導案を作成するときの戸惑いとなり、書き難さや困難感につながったと考えられる。

表3

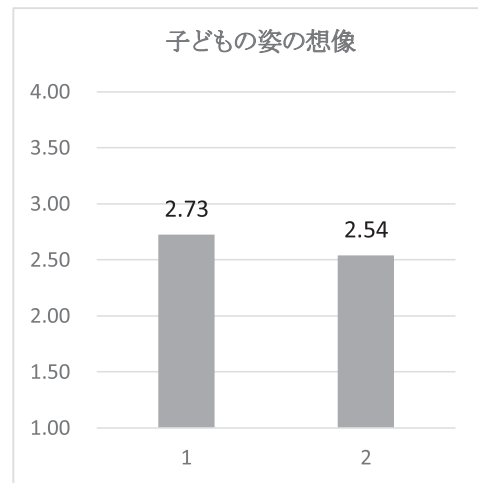
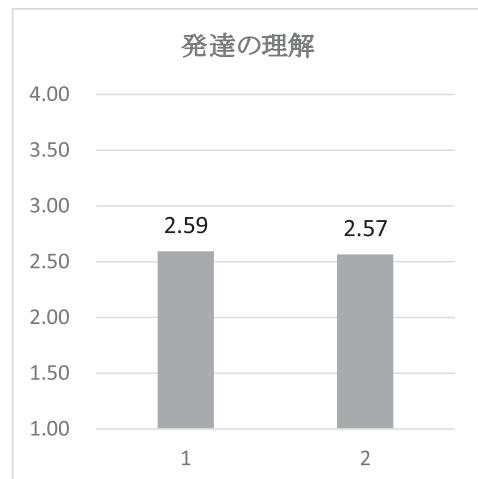


表4



2. 保育内容

保育内容3項目中、2項目<表5><表6>において映像視聴前より視聴後の方が、課題に対しての困難感が微増する結果であった。これは映像が学生がイメージしていた活動の「ねらい」や保育の展開と異なっていたと考えられる。映像視聴前に学生が立てた「ねらい」は、「絵本を楽しんで見聞きする」「絵本を友だちと楽しんで見る」というものが多かった。これらの「ねらい」から、学生は保育者は単に絵本を読み聞かせ、子どもはそれを楽しんで聞くという保育の展開と子どもの姿を想起していたと推測できる。しかし、実際の読み聞かせ場面の映像では、保育者は適当に絵本を選びただ読み聞かせているのではなく、以前に植えた野菜の生長や水やりの必要性について話したり、当番活動の話をしてしたり、活動と絵本の内容を関連付ながら保育を展開していた。映像視聴後に学生が立てた「ねらい」を見ると、「楽しむ」以外に、「野菜の収穫に興味を持つ」「友だちと協力する大切さを知る」「家族や友だちと助け合う大切さを知る」等、絵本の内容と関連した「ねらい」も見られた。これは、映像を視聴した学生が、活動やねらいは単に「楽しむ」という単純なものではないことが分かり、自分で考えたよりもっと幅広い「ねらい」があることに気が付いたと言える。しかしこのことが、「ねらい」の立て方に難しさを感じる要因となり、困難感が増したと考えられる。「ねらい」を立てる際、授業の中では常に「～を楽しむ」だけでは不十分で、子どもに何を体験させたいのかという発達の視点を持ち「ねらい」を設定することが大事であると伝えている。しかし、空想した「子どもの実態」から「ねらい」を立てることは困難を極めると広瀬⁷⁾が述べているように、現場で日々子どもと関わっていない学生にとって子どもの姿はもちろん、そこから生み出されるねらいや活動を考えていくことは私たち教員が考えているより難しいことなのだとと言えるであろう。

一方、保育内容3項目中、1項目<表7>においては映像視聴前より視聴後の方が、課題に対しての困難感が減少する結果であった。これは、保育者と子どもの会話、絵本を見ている時の真剣な表情、友だちとのやりとりをしている子どもの姿を見ることで、絵本の読み聞かせが様々な年齢に応じた活動になりうるということを感じたと言える。

表5

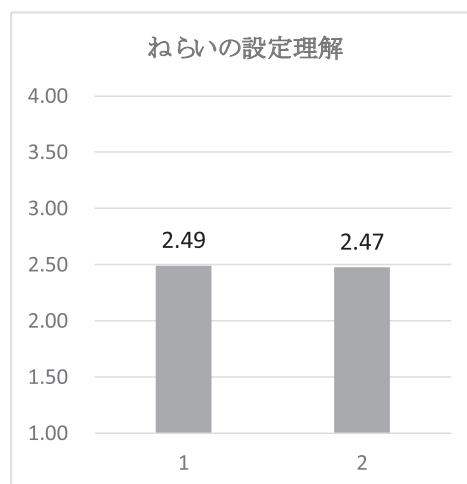


表6

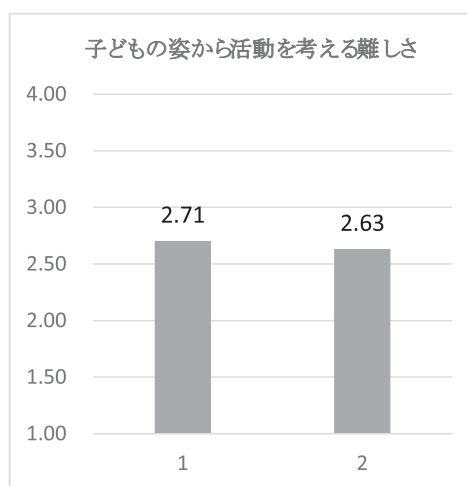
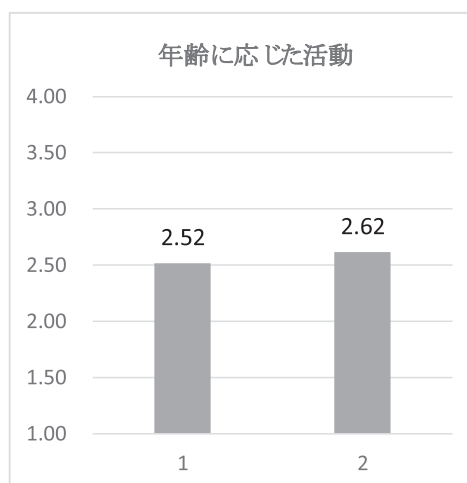


表7



3. 援助・指導方法

援助・指導方法5項目中4項目においてビデオ視聴後の方が課題に対しての、困難感が減少する結果となった<図8><図9><図10><図11>。活動の終え方や導入の方法、集中させる方法については、保育者が

どのように活動を始め、どのように子ども達に話しかけ、どのように活動を展開していくのか実際の保育場面の映像を見ることで、学生の頭の中にあるイメージがより具体化され指導案が書きやすくなったと考えられる。また、保育者の声色、話すテンポ、メリハリ、表情、動きなどから、学生が保育の技術的側面に対するヒントを得たことが困難感の減少につながったと考えられる。またこの結果は、学生は子どもの姿を見て実態を把握しようとするより、保育者の動きを見ようとする傾向が強いと言える。これは学生の実習日誌を見ても同様で、子どもの姿（言動）より保育者の姿（言動）を具体的に細かく書く傾向にある。教育実習で学生は保育者をモデルとして保育を行わなければならない。そのため、保育者の姿から学ぼうという気持ちから、自然と保育者の言動や行動に目がいくのであろう。

一方、援助・指導方法 5 項目中、1 項目<表12>においては映像視聴前後の差異が見られなかった。これは時間配分についてまでは学生が意識して映像を観ていなかったと考えられる。

表 8

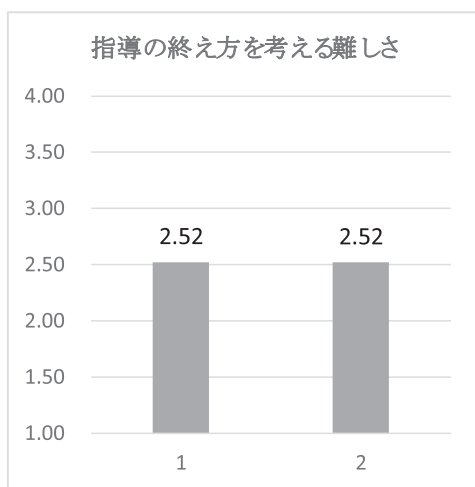


表 9

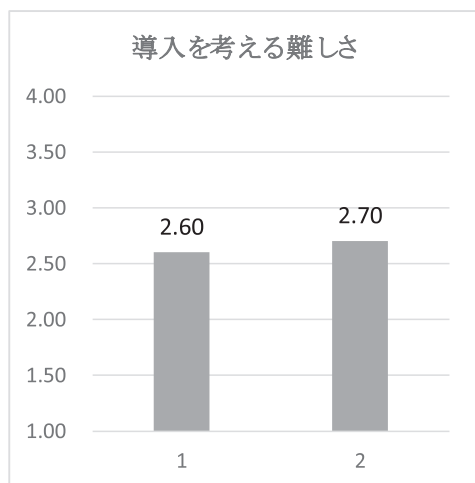


表10

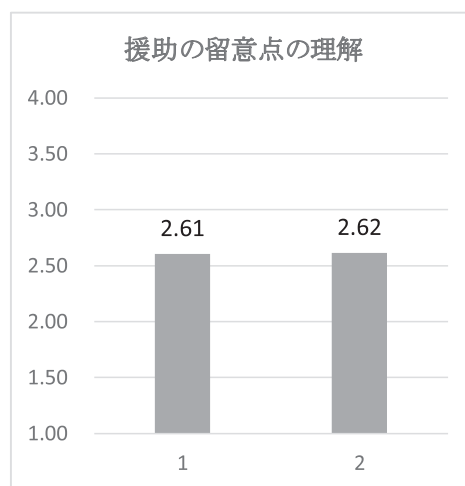


表11

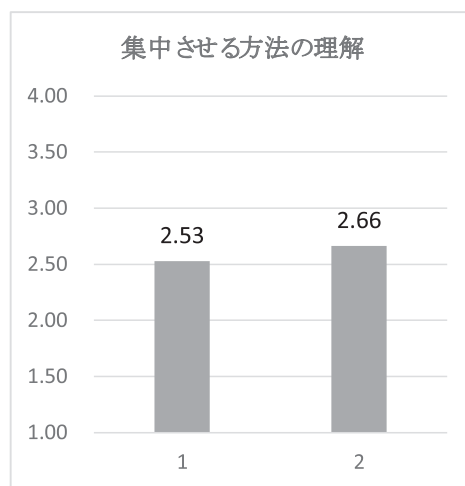
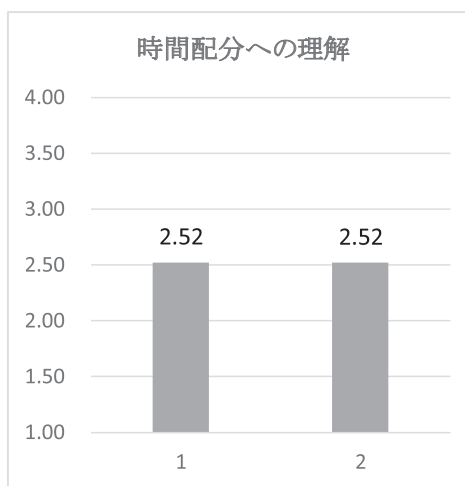


表12



V 今後の課題

本研究の結果より、学生は子どもの姿より保育者の動きを中心にしていることが分かった。これは指導案作成時の「指導・援助方法」を検討する際の困難感が

減少するという点において映像を用いたことは有用であることが示唆された。一方、今回の分析結果からは子ども理解と保育内容の深まりについて変化は見られず、この点については課題が残った。考えられる理由として、今回の映像が保育者の姿を中心に撮影されていたこと、もう一つは事前に、何を見るかという「視点」を明確化させる指導をしなかったことが挙げられる。溝口⁸⁾は、子ども理解を深めていくには、一人ひとりの子どもの姿のどの部分に焦点を充てるのか、その姿をどのように受け止め、どのように考え探求していくのかという視点を持つことが大切であると述べている。また島崎⁹⁾は、視覚教材を用いるねらいとして、ビデオ画像を通して保育者や子どもの様子を観察するだけではなく、保育者の援助の意図や子どもの心情など事実の裏側を読み取り文章化することを挙げている。これらを踏まえると、映像を視聴し保育を疑似体験するだけでは子ども理解を深めることは難しく、何をどう見るのか視点を明確に持ち、そこでのエピソードを自分なりに読み取ったり、学生同士で話し合ったりするなど、映像を通して子どもや保育者の行動の意味や意図を読み取れるよう、授業の展開を工夫していくことが課題である。

文献

- 1) 森本朋佳 ふせんを活用した指導案作成方法の研究 鹿児島純心女子短期大学研究紀要, (44), 21-36, (2014年)
- 2) 榎本眞美 学生が感じる実習記録の困難さに関する一考察——困難さが少なくなるプロセスに着目して—— 東京家政大学研究紀要, 57 (1), 19-30, (2017年)
- 3) 林富公子 学生の立案指導についての一考察——実習テキストに掲載されている指導案内容と学生が取り組んだ指導案内容との比較を通して—— 園田学園女子大学論文集, 44, 203-211, (2010年)
- 4) 太田光洋 指導計画立案をどのように教えるか——保育系学生のための指導法の研究—— 保母養成研究, 13, 37, (1995年)
- 5) 大滝まり子 幼稚園実習における指導案作成の留意点 北海道文教大学研究紀要, 32, 49-56, (2008年)
- 6) 菜原桂子・小林美華 幼稚園教育実習・保育実習における指導案の現状と課題 北翔大学短期大学部研究紀要, 55, 139-145, (2017年)
- 7) 広瀬健一郎 大学における保育短期指導計画作成の教授法——活動提案型指導案の立案指導—— 文化女子大学室蘭短期大学, 29, 23-45, (2006年)
- 8) 溝口綾子 質の高い保育の実現に向けて-帝京こども教育研究会研究主題の一考察 帝京短期大学紀要, 19, 9-20, (2017年)
- 9) 島崎あかね 保育実習 I (保育実習) 事前指導における実習記録の指導内容——視覚教材の活用について—— 上田女子短期大学幼児教育学科保育者養成年報, 9, 5-7, (2015年)

付記

本研究は、第14回日本子ども学会学術集会にて発表した内容に加筆修正を加えたものである。

Awareness to Issues which Students Feel When Creating a Lesson Plan: Consideration on Changes before/after Watching a Video

Makiko MUROI * Atsuko KIRIKAWA **

* Department of Early Childhood Education, Teikyo Junior College

** Japan Women's College of Physical Education

Abstract

In a practical training, students have to train all days (also called as responsible training) in which they are entrusted the job of full-day child care under the instruction of teacher in charge. Accordingly, they are required to write a lesson plan in detail. However, there are many students who have an aversion to creating the lesson plan. We researched on issues which students feel when creating the lesson plan and changes in awareness to issues by using a video of actual child care scene. As a result, we could not observe any changes in awareness to issues such as understanding on children or deep understanding on child care contents even by using visual aids.

However, we found that issues as considering the instruction/supporting methods would be decreased when students create the lesson plan if they could image how to develop child care. In the future, we need to have further research on the instruction methods so that students can have a deep understanding on children.

Keywords : Lesson plan, Understanding on children, Practical training